

第2期 平塚市地域福祉リーディングプラン

子ども版

(2024年度から2028年度)

～みんなで協力して、助け合い・支え合える平塚市をつくるために～

地域福祉ってなんだろう？



地域福祉？ 聞いたことないなあ。。。。

みんなが自分たちの住んでいる地域で安心して、その人らしく幸せに生活できるように、近所の人や地域で活動している団体などが協力しあって、助け合い・支え合いの地域をつくっていきましょうという考え方のことだよ！！



★ポイント

近所の人にあいさつをしたり、お年寄りや困っている人に手を貸したりすることも大切な地域福祉の活動です。普段から近所の人と顔見知りになり、みんなで協力しあえる地域をつくっていきましょう。特に、今後は平塚市でも産まれてくる子どもの数が減ることで、若い人が減り、お年寄りや助けを必要とする人が増えていくことが考えられます。そうしたことから、地域での「助け合い」「支え合い」の関係を築くことがとても大切です。



- 近所の人や通学路で見守りをしてくれている人たちにあいさつはしていますか？
普段から、あいさつや声かけをして、気軽に声をかけ合える関係をつくりましょう。

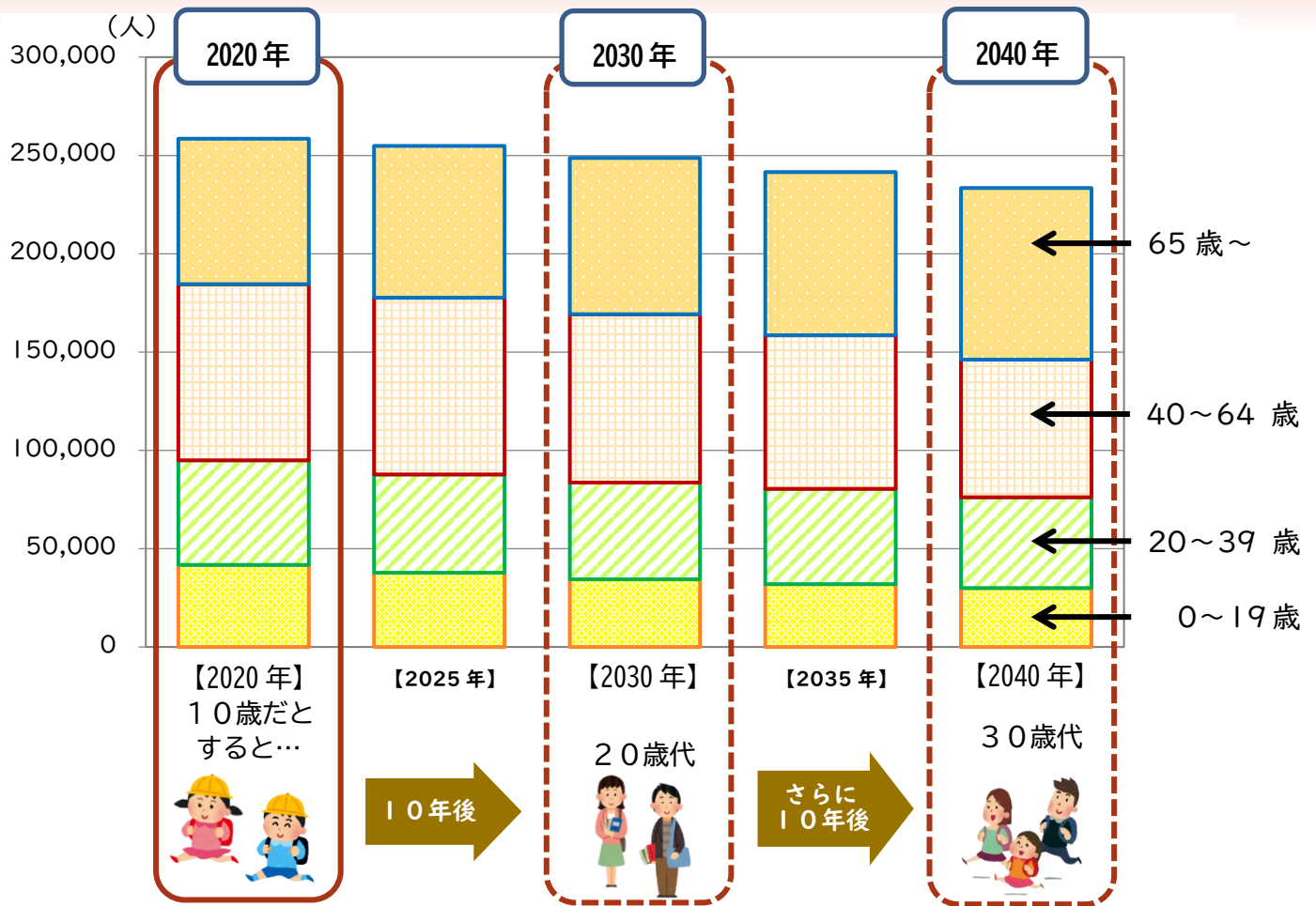


- 見守りやちょっとした助けが必要な人たちもいます。
地域で困っている人がいたら、声をかけたり、手伝ったり、大人に相談したりしましょう。



- 地域のためにいろいろな活動してくれている人や団体があります。
そうした人たちの存在や活動を知っておきましょう。

平塚市の人口はどうなるのかな



● 65歳以上のお年寄り

現在は、『人口の約3割がお年寄り』なんだけど、これからはお年寄りがもっと増えていくよ。
2040年になると『人口の約4割がお年寄り』になると予測されているよ。

→ 考えてみよう お年寄りの人が増えるとどうなるのかな？

● 20～64歳の働く世代

働く人の数は、だんだんと減っていってしまうんだよ。

→ 考えてみよう 働く人が減るとどうなるのかな？

● 20～39歳の世代

子どもを産む女性の数が減っていくと、生まれる子どもの数も減り、子ども全体の数も減っていくね。

→ 考えてみよう 子どもが減るとどうなるのかな？

わたしたちはどんなことができるかな？



まずは、自分たちができそうなことから少しずつ取り組んでみましょう。例えば、近所の人へのあいさつやごみひろい、電車やバスなどで席をゆずることも、大切な地域福祉活動だよ。

こんなことも地域福祉活動だよ



近所の人へのあいさつ



電車やバスなどでお年寄りや
体が不自由な人へ席をゆずる



地震や火災が起きた時の声かけ



地域での美化活動や行事への参加

地域福祉活動って、すごく身近なことなんだね。
僕たち、私たちが
今日からできることも
たくさんあるんだね！



やってみよう！





しゃかいふくしきょうぎかい しゃきょう 社会福祉協議会（社協）ってなんだろう？

・私たちの暮らす平塚市には、社会福祉協議会（以下、「社協」）があります。「地域福祉の推進と住民が安心して暮らせる福祉コミュニティづくりを図ることを目的とする団体」です。社協の職員が、小・中学校などで福祉の話をすると、福祉とは「ふだんの くらしの しあわせ」のことで、と説明をしています。「みんなでみまもる ゆるやかなつながり」を合言葉に、地域福祉活動への意識の向上、交流、つながりの創造や地域の支え合い活動の充実などを推進していくことが社協の目的です。

・子どもからお年寄りの方、障がいのある方が住み慣れた街で過ごされる中、地域の皆さん同士が協力して助け合うことで「ちょっとした困りごと」が解決できれば、「誰もが支え合いながら安心して暮らせる『ともに生きる豊かな地域社会づくり』を進めていくことができると社協は考えています。地域の皆さんが主役になって、そのしくみをつくっていく、社協はそれを応援する仕事をしています。



↑ 平塚市社協
ホームページ



地域福祉リーディングプランってなんだろう？

みんなで協力して助け合い・支え合える平塚市をつ
くっていくためにはどうしたらよいかを示したプラン
(計画) だよ！



↑ 地域福祉リー
ディングプラン
ホームページ

★プランの目標

平塚市では、子どもからお年寄りの方、障がいのある方など、地域で暮らすすべての人が、お互いを思いやり支え合っていくことが大切だと考えています。また、一人ひとりが安心できる未来への思いをもち、自分のこととして少しずつ地域福祉活動に取り組んでいくことで、すべての人が心豊かに安心して暮らせる未来を創ります。プランでは、この考えを大切にしながら地域福祉活動を進めていくために、基本理念（プラン全体の目標）を「わたしたち一人ひとりが輝きながら未来を創る共生のまち ひらつか」としました。

ちいきふくし 地域福祉リーディングプランの内容

ないよう

基本目標 1 地域を支える人づくり

みんなが安心して生活できる地域にしていくためには、住んでいる地域の中で支え合い、助け合う意識づくりや支え合いの活動をする人が増えることが大切です。

すべての人がお互いを理解し、大切にし合うことができるよう、地域福祉について、みんなが気づき、理解できるように周知をします。また、教育や福祉活動を行う人たちの育成に取り組み、身近な人のちょっとした困りごとに気がつける人を増やします。

平塚市や社協が取り組むこと

- みんなが地域福祉に関心を持ち、より積極的にボランティアとして福祉活動に参加できるように環境を整えます。
- 地域の身近な相談者である民生委員児童委員※¹ や平塚市独自の取組である町内福祉村※²、各地区の社協の活動をもっと多くの方に知ってもらえるように PR します。
- 言葉や生活習慣が違う外国人の方も安心して暮らせるように、いろいろな言語での情報提供や日本語教室の開催のほか、地域住民との交流を増やしていきます。
- 子どもたちが自分を大切にできるよう、「命の大切さ、尊さ」を学ぶ機会を提供します。

※1 地域にお住まいの方たちの見守りや相談・支援活動を行っています。平塚市では約 400 人が各地域で活動しています。

※2 「地域で支え合うしくみ」を地域住民が主体となって創り上げているボランティア団体です。主に『身近な生活支援活動』と『ふれあい交流活動』をそれぞれの地区で行っています。

みんなができること

- 近所の人にあいさつしたり、近所の情報に興味をもったりしてみよう。
- 地域で大人と一緒に活動する機会をつくってみよう。
- 地域や福祉に関心をもち、できることから活動に参加してみよう。
- ボランティア活動を理解しよう。



平塚市社協ボランティアセンターホームページ

基本目標2 支え合いのまちづくり

いつ起こるか分からない地震や大きな台風などの自然災害に備えることも含めて、支え合い・助け合うことができる地域となるよう、地域の人たちの交流や様々な団体の関係づくりを進めます。

また、お年寄りの方やからだの不自由な方、赤ちゃん連れの方なども安心して快適に外に出られるよう、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン※を推進します。

※お年寄り、からだの不自由な人、妊娠している人、赤ちゃん連れの人、子ども、外国の人など
いろいろな人にとって使いやすいデザインのこと。

平塚市や社協が取り組むこと

- ・地域住民や団体による支え合い活動への支援、つながりを広げることで、地域の人々が互いに支え、支えられる地域づくりを目指します。
- ・避難する際に支援が必要な人への支援体制や福祉避難所の充実、災害ボランティアの確保など、いざという時に助け合える安心・安全なまちづくりを日頃から進めます。
- ・道路、公園や公共交通機関等のバリアフリー化、ユニバーサルデザインを推進するとともに、誰もが活動しやすい移動手段の確保を目指し、福祉に配慮したまちづくりに努めます。

みんなができること

- ・地域の防犯活動や交通安全運動に参加しよう。
- ・地震や台風のときの避難場所を事前に確認したり、防災訓練に参加したりしよう。
- ・学校の帰り道の危険な場所を確認しよう。
- ・車いすを使っている人、目が見えない人、耳が聞こえない人、妊娠している人、日本語がわからない外国人など困っている人がいないか普段から気にかけてみよう。

基本目標3 包括的※な支援の仕組みづくり

※すべてを含めていること

地域において福祉サービスや助けを必要としている人が相談しやすい環境づくりや、いろいろなサービスが利用できるように情報が得やすい環境づくりを進めます。

また、すべての人が住み慣れた地域で、安心して自分らしく暮らせる仕組みづくりを進めます。

平塚市や社協が取り組むこと

- ・福祉に関する最新の取組や相談窓口の情報を提供して、相談対応力を高めます。
- ・一人暮らしの高齢者、日中に一人となる高齢者を中心とした見守り体制を充実します。
- ・世帯の状況に応じた支援に向け、民生委員児童委員と連携し、生活に困っている世帯の把握や事業の周知に努め、早期発見ができるよう取り組みます。また、生活に困っている人への支援として、関係機関との連携強化に努めます。
- ・次世代を担う子どもの貧困状態を解消するため、学習支援や子ども食堂など地域に住んでいる人たちが主体的に実施する取組を支援します。
- ・地域福祉に係る制度やサービスに関する情報へアクセスしやすくなるよう、むずかしい用語を減らした分かりやすい情報を提供します。

みんなができること

- ・困ったときに身近で相談できる人や場をつくろう。
- ・困ったときに助けてくれる場所があることを知っておこう。
- ・ご近所の家で郵便物が溜まっていないか気にかけてみよう。
- ・ご近所で電気がつけっぱなしになっていないか気にかけてみよう。

ちいきふくし

地域福祉リーディングプランには、こんなことも載っているよ。

こころと命を守るための取組

人は誰でも落ち込むことがあります。進路や友人関係、家族とのことなどで時には不安を感じたり悩んだりすることもあるでしょう。深刻になる前に、一人で抱え込まずに気持ちを話せるように、また、身近な人がお互いに支え合えるように取組を行っています。

【平塚市の取組】

- ・悩みや困りごとを相談できるよう、相談窓口を周知します。

※6歳から19歳までの人が相談（電話・来室・メール）できる

場所に「青少年相談室」があります！

- ・悩んでいる人に気づき、声をかけてあげられる人（ゲートキーパー）を増やします。

メール



成年後見制度の利用が広がるための取組

成年後見制度ってどんな制度なの？

判断能力が十分でない人の権利を守る制度です。自分の思いを伝えられないときや、いろいろな手続きが一人でできないとき、自分の気持ちに寄り添ってくれる人が必要です。この役割をする人が「後見人」です。希望を尊重して、安心した生活ができるように、一緒に考えて、手続きを代理でする人のことです。

成年後見はやわかり(厚生労働省ホームページ)

<https://guardianship.mhlw.go.jp/>

【平塚市の取組】

- ・制度を知ってもらえるように、出前講座を開催しています。

- ・御本人の意思を大切にしていけるように、意思決定支援研修を開催しています。



成年後見制度について、
詳しく知りたい方はこちら↑

経済的に困っている人の自立を支援する取組

感染症の流行や物価が高くなるような社会状況の変化などによって、安定した生活が続けることが難しくなる人がいます。そういう人たちが再び安定した生活ができるように、いろいろな方法で支援します。

【平塚市の取組】

- ・生活上の困りごとについて相談を受けて、住む家を失わないための支援や仕事につくための支援、お金の使い方についての支援などを関係機関と協力して行います。
- ・経済的に困っている家庭の中学生や高校生に対して学習の支援や、学校をやめてしまうことのないように相談や指導を、学校などと協力して行います。
- ・ホームレス生活をしている人を巡回して相談を受け、住む場所を見つける手伝いを、希望を聞きながら行います。

犯罪をした人が再び犯罪をすることを防ぐための取組

犯罪をした人が再び犯罪をすることが多くあり、平塚市内での事件の半分以上が再び犯罪をした人によるものとなっています。再び犯罪をする人を減らしていくためには、地域で孤立させないことや保護司※¹による支援が大切です。

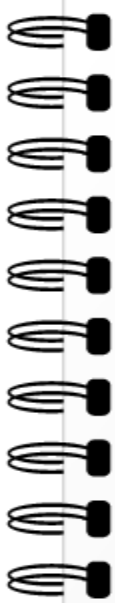
【平塚市の取組】

- ・犯罪や非行のない地域づくりに向けて、罪を犯した人の立ち直りに関する地域の理解が進むよう取り組みます。
- ・学校と保護司※¹が子どもたちの現状などを話し合い、学校と保護司の連携を強めます。
- ・保護司会などの団体による活動を支援します。

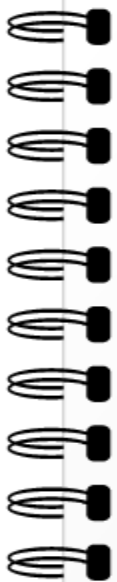
※1 犯罪や非行をした人が立ち直ることを地域で支えるボランティア。住むところや仕事について相談にのったり、一緒に探したりします。



みんなで考えてみよう



自分に取り組んでいけそうな地域福祉活動を書き出してみよう！



大人になったら、何ができるか（したいか）考えてみよう！

お問合せ先

2025 年 9 月 発行

平塚市福祉部福祉総務課

〒254-8686 平塚市浅間町 9-1

電話 0463-23-1111（代表）

E-mail: fukushi@city.hiratsuka.kanagawa.jp

本書の作成について

本市では、2024 年 2 月に第 2 期平塚市地域福祉リーディングプランを策定しました。

本書は、子どもたちが地域福祉活動への興味や関心を高めるためのきっかけづくりを目的に作成したものです。